

発行所

静岡県高等学校障害児学校教職員組合
静岡市葵区駿府町1-12
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyouso.jp/
e-Mail info@s-koukyouso.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814

第439号
2018年
12月12日

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、全教職員に配布しています

教え子を再び戦場に送るな

2面 ・県教育のつどい
・宮下与兵衛さん講演



いくつかの改善は評価 人事評価制度「本格実施」は見直しを

— 教育長交渉 静岡高教組の見解 —

高教組は11月19日、教育長との最終交渉を行いました。8名が参加し、木藤委員長にかわり渥美二郎副委員長があいさつしました。教育長は18年度給与改定について、人事委員会勧告どおり実施すると回答、5年連続の引き上げ改定となりました。12月県議会を経て、年内に差額支給となる見通しです。人事評価制度については来年度前期の評価結果から給与等へ活用するとかさねて回答しました。以下主な教育長回答です。

多忙化解消に関して

「業務改善推進プラン」を組合とも協議しながら年度内に作成。管理職への労働法制等の研修の制度化。

・部活動ガイドラインの示す活動時間については上限規制360時間とする。文科省の動向を注視する。

・修学旅行の変形労働時間制の見直し、上限撤廃、割り振りの確実な調整。

非常勤講師の特別休暇

・忌引き休暇拡大、結婚休暇、無給の妊娠障害

休暇、骨髄ドナー休暇を新設（31年度から）

・新たな任用制度に関して、条例事項について今年度末までに結論を得たい。組合とも話し合う。

恣意的な評価にならないようチェックする

交渉の中で特に人事評価制度の本格実施にむ

け、県教委は「評価者と職員の理解のために、丁寧な説明会を開催。評価者の手引きやリーフレットなどを作成し、理解をすすめる、広く意見を求める」とし、人材育成の観点から、「2年分の評価

結果を蓄積し、中位評価が続くようなら上位評価になるよう促す。恣意的な評価にならないよう県教委がチェックする。不満や意見の申し出も制度として保障する」と回答しました。さらに「個々の教師の良さをいかに引き出せるか、評価者の能力が試される」とも述べました。

専門部交渉

教育長交渉では詰められなかった各専門部の要求や継続課題に関して、高教組は、12月21日、26日に専門部交渉を行います。引き続きご協力をお願いします。

修学旅行の割り振り、部活動指導時間

修学旅行の割り振りに関してはより実態に即した改善となり、評価できますが、安易な超過勤務の容認にならないよう制限の設定が必要です。

部活動の指導時間については、文科省が作成する公立学校教師の勤務時間の上限に関するガイドラインと現状の活動時間をどう調整するのか大きな課題です。

教育署名11896筆を 県議会に提出・請願

子どもと教育を考える静岡県民会議は11月29日、教育予算の増額などを求める請願書を教育全国署名11896筆と共に渥美静岡県議会議長に提出しました。



議長請願の後、吉林副知事、木苗県教育長とも懇談し、エアコンの設置、就学援助や給付制奨学金の拡大、教員の定数増などを要請しました。懇談では、教育にトツプランナー方式や民間委託などの手法が入り込みそうであること、自己責任や受益者負担のやり方は教育になじまないことも問題になりました。

その他、休暇・休業教職員の代替未配置、新採教員の過重勤務、精神疾患罹患者の高止まりなど教職員の心身の健康への心配と子どもたちの学

問勤務が認められる職場づくりが急務です。子育てしやすい環境をと、1963年に静岡県の中の女性教員たちが長崎で行われた日教組大会で初めて「育児を取りたい」と声を上げたそうです。大会では「虫がいい」と二蹴され

「虫がいい」と二蹴され否決されました。それから12年もたつてようやく女性教員に1年の育児休暇が認められました。今や男女共に3年間の育児休業が取得できます。女性も男性も子育てや介護をしながら働き続けるための権利を獲得するためにみんな声を上げ、権利を拡大していきましょう。



教育署名「全国の教育長会議で予算増を国にお願いしている。市町長の会議でも要望を聞いている。特別支援学校の狭隘化解消も重要課題。学校施設の安全チェックも必要。若い人が静岡県に残って頑張ってくれることをめざしている。」

主張

その年度に育児休業を6カ月以上とることが確定している場合、4月当初から代替の教員を配置しているという回答が高校教育課よりありました。現状では該当者は4例程度と少ないと言っています。私が、私の勤めた高校の職場や周りでも、4月当初から代替教員が配置されたということに驚きました。もつと周知に努めるべきです。

女性が働きやすい職場のために 育児代替講師を4月から任用

産前休暇に入る場合には、4月当初から臨時的任用教員を配置しているそうです。担任が途中で変わることに伴う子どもたちへの影響を配慮しての措置ですが、出産する側にとってもあり

支援学校の知的障害の実技担当者へのみ妊中の業務軽減としてT・Tがつくことになっていますが、長年の要求である肢体不自由担当の業務軽減だけでなく、すべての妊娠中の教師の業務軽減が

静岡県は障害を持つ子どもを育てる親のために、18歳まで部分休業を取ることのできる画期的な制度をつくりました。部分休業には代替教員はつかないの、持ち帰り

視座

ある女子生徒が、太宰治ハマルーと勧めてくれたので、ひさしぶりに読んでみました。学生時代にメジャーなものは読んだので、短編をいくつか。とにかく、情けない主人公ばかり。カネにだらしないわ、女性は傷つけるわ、酒は飲みすぎるわ、薬にも手を出すわ、嫉妬深いわ、働かないわ。おそらく、作家自身を投影しているのでしょう。ある文学者が、もし世界文学選手権があったら、日本代表は情けないかもしれないが太宰治でいくしかない、と言ったとか。ふむ、たしかに太宰の何が多くの読者を引きつけるのでしょうか？それは、ダメなところをさらけだしてくるからだと思います。人間、誰もがダメなところを抱えて生きています。いつもそのダメなところを必死に隠して。だから、疲れちゃうことも。でも、同じダメなところを抱えている人と、作品を通してでも出会えば、ホッとするんです。職員室は、弱音を吐きあえる場所であることが理想だと思います。お互いに強がって、自分のダメなところを隠し、誰かのダメなところを探すようになったら、もう終わり。人間、誰もがダメなところがあり、助けあわなければ生きていけないのですから。弱音を吐きあうからこそ、ダメなところの情報共有ができて、助けあえるんです。▼冬休み、コタツで太宰にさらにハマることになります。きっと、コタツから出られなくなり、さらにダメな自分に向かいあうことになるでしょう。と、今から弱音を吐いておきます。

第11回 静岡県教育のつどい 豊かな育ちと学びのために 地域と学校にできること



「静岡県教育のつどいin島田市」が、11月23、24日の2日間わたって島田商業高校を会場に開催されました。初日には中庭で音楽部による歓迎演奏会が開かれ、すばらしい音色に包まれて和やかな雰囲気の中でつどいが始まりました。高校生、大学生、若者を含め、両日で延べ200人以上が参加しました。

個人化に対抗できる 「共同体」づくり

初めに実行委員長の津富宏県立大学教授の挨拶文が代読されました。

新自由主義は人をばらばらに、「個人化」し、自己責任で生き抜かねばならない社会にして、格差貧困を深刻化させている。

だからこそ今、自分が生きている社会は信頼に値すると思えるような出会いを学校や地域の中でつくり、個人化に対抗できる「共同体」をつくる実践が求められている。

この呼びかけに応じ、初日は「地域とともに生きる」という大きなテーマを掲げ、実践報告がありました。

小学校5年生の実践

郷土の特産物の学習で、実際に緑茶を茶葉で淹れたり駿河千筋細工に触れたり、インタビューを聞いたりすることで子どもに関心を持たせました。また、伝え方の工夫を国語で学んで話し合いに活かすなど、教科横断的な周到な準備がなされた実践でした。

島田商業高校の 鈴木滋さんの報告

「島田フューチャーセンター」では、高校生が地域に入って活躍しています。島田の面白い人を紹介する本、商店街の菓子屋さんの紹介冊子、町の魅力を紹介するアプリの作製など、学びがダイレクトに地域に役立つ実践が多数紹介されました。

中学校の実践

静岡の菓科地区の全校61人という過疎化に悩む小さな中学校ならではの「総合」のとりくみで実践が多数紹介されました。

宮下与兵衛さん 講演要旨

学校づくりに参加

電車のマナーなどが悪く、町での評判が悪く、いった辰野高校では、生徒を学校の主人公にする「学校憲法宣言」を掲げ、生徒、保護者、職員三者で学校づくりをすすめていく「三者協議会」を設置しました。

町づくりに

文化祭では「辰野高生と地域住民によるまちづくりシンポジウム」を開催。住民の八割が反対の市町村合併問題をとりあげ、生徒会長が「中学生以上に説明させてください」と発言しました。



「自立と協働の町づくり委員会」にも生徒会が参加。町営プールをつぶし、そこに町営病院を移設するという案に

「子どもと共につくる地域と学校」

対し、「子どもたちの夢をつぶさないで下さい。子どもたちがこの町にいなあと思わなかったらこの町はつぶれてしまいます」という意見を

また、商業科が、商工会から補助を受け、空き店舗でコミュニティカフェをオープンしました。家に閉じこもっているお年寄りを招き、お茶やコーヒーを無料で提供し、帰りに商品を買ってもらったり、お年寄りの作品を展示したりもしています。ママさんから子どもと行けるカフェの要望を受け、シネマカフェを作った

り、簿記やパソコンの教室も開いています。市民として成長していく店をたまたまかばかり考えていた商店主たちは、もう少しがんばろうと思うようになり、生徒たちも、町での交流の中で、マナーやモラルを身につけ、市民として成長しています。

た。人づきあいが苦手な生徒にも「人に興味をもとう」と呼びかけ、地域の多様な人と出会う中で成長していく姿に驚きました。

発達障害の生徒を 担任して

自閉スペクトラム症（ASD）の生徒に、担任がどう関わったかが、丁寧に語られました。

ASD傾向の生徒との コミュニケーションは難しさ

を感じていますが、きめ細やかな対応とその率直な報告に聞き入ってしまいました。彼にとつてHRが「信頼に値する」「共同体」になっていったらと思うられる実践でした。

（執行委員 前田浪江）

《D分科会》 「地域と共につくる学校」

「地域の活性化」 藤枝北高校

天然酵母を利用した商品開発と発酵体験教室を主な活動としていた食品サイエンス部に、浜松市水窪町から町おこしのオファーが届きました。水窪で天然酵母を採取し、地酒を開発します。来町者は増えませんが、商品開発だけの活性化の限界に直面し、地域資源の掘り起こしに取り組みます。高校生と巡る「水窪たんのうツアー」などを企画して好評。さらに「農家民宿」プロジェクトにも取り組んでいます。

「商品開発」 島田商業高校

島田信用金庫「お茶消費拡大プロジェクト」のオファーを受け、市と協力し、まさに産官学の取り組み。フルーツティー、茶葉を使った七味の開発やパッケージを作成しました。高校生のアイデアが地域を変えていく過程が何ともスリリングです。

「職場体験」 島田商業高校

《E分科会》 「ガイドラインで 部活は変わるか」

策定が進む「文化部ガイドライン」や磐田「スポーツ部活」掛川「地域部活」などの新たな動き、また部活のために市の研修を欠席する教員、運動部顧問の審判や大会への負担、教員・生徒・保護者それぞれの「温度差」など様々な報告がありました。

《C分科会》 「障がいのある人たち と共に」

島田市の「青空の会」 は、発達障害の子たちが 集まる楽しい居場所

ゲームのルールを話し合ったり決める過程で、バラバラに遊んでいた子どもたちが、友達を意識できるようになります。発達障害のある娘さんの成長の様子の紹介もありました。迷い、

も魅力ある町になるのか考えるきっかけになりました。

「魚国」 焼津水産高校 流通情報科

小川漁業協同組合と商品開発に取り組んでいます。七夕祭り、浜通り「あかり展」、小川港での「さば祭り」などに参加し、かつお節クッキーなど、焼津の特産品を使った新商品の開発と販売を行っています。町を元気にしたいという高校生の強い思いに元気をもらいました。

「魚国」 焼津水産高校 流通情報科

静岡大学、県立大学、常葉大学の学生が、勉強したくてもできない子どもたちの力になるための「宿題カフェ」「みんなの居場所」などを作っています。支援しながら、ひとりひとりに寄り添い、「ここにいていいんだ」という安心できる居場所づくりを意識しています。

障害児教育部中部・東海・北陸 ブロック学習交流集会

静岡県教育のつどいと同時開催し、静岡・愛知・岐阜などから40人以上が参加し、学びあいました。

「特別支援学校・小中 部」分科会では、重度重複 の肢体不自由児の、その子 なりの方法による表現を 受けとめ、共感しながら 返すことを大切にすること が発達につながるという 実践が紹介され、コミュニ ケーション力を高める方法 について語りあいました。

財政的な運用次第で「部活動指導員」配置が可能であること、将来的には学校から切り離していくことの必要性などの重要な指摘もありました。

「ガイドライン」 に過度な期待はで きません。当事者で ある生徒の意見を どうくみ取るかも 今後の大きな課題 です。

どの新たな動き、また部活のために市の研修を欠席する教員、運動部顧問の審判や大会への負担、教員・生徒・保護者それぞれの「温度差」など様々な報告がありました。

「高等部・青年期」分科

（浜松・横村雄司）